

地域アプローチ事業の 取組実践事例

第3回 地方公共団体・オンライン意見交換会
「移住支援や働き方」の取組の実践例と、「地域アプローチ」による対応策の検討

令和4年12月16日（金） 15:30～17:30

目次

1. 安芸市の概況について
2. 安芸市における少子化対策の現状と課題
(モデル事業に参加した動機)
3. 安芸市少子化対策プロジェクトチームについて
4. 地域アプローチ事業の取組について
 - ①地域アプローチ事業の流れ
 - ②わがまちの特徴や要因仮説の抽出 (地域評価ツールの活用)
 - ③要因仮説の検証
 - ④検証を踏まえた施策の立案
5. 今年度の取組について
6. 今後の展望について

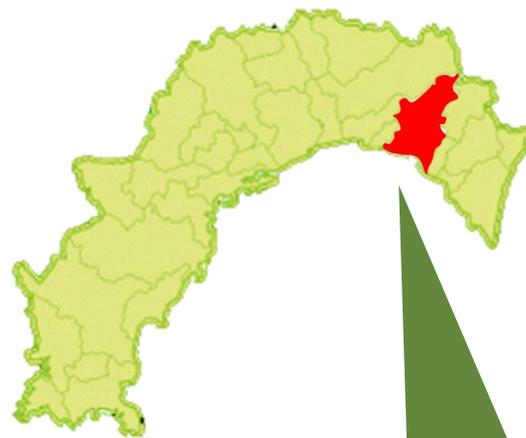
1. 安芸市の概況について

項目	概要
行政区域面積	317.16 km ² （令和3年1月1日現在）
人口	16,243人（令和2年国勢調査） → 11,885人（2040年社人研推計人口）
合計特殊出生率	1.79（1980年） → 1.44（2020年）
平均初婚年齢	男27.1歳、女25.0歳（1980年） → 男30.1歳、女28.9歳（2019年）
主要産業	第1次産業（構成比27.0%、平成27年国勢調査） 市内就業者のうち、約4分の1が農業就業者で、日本一のナス生産地 
市内の教育・医療機関等の状況	小学校8校、中学校3校（うち県立中学1校）、県立高校2校、大学なし 保育園・所8箇所、幼稚園なし（令和4年3月閉園） 13医療機関（うち、県立総合病院1院）



「歴史と文化が香るまち」
安芸市へようこそ！

三菱創業者
岩崎彌太郎の出身地



高知県東部の拠点

■これまでの少子化対策の取組

- ・本市では、出会い・結婚、妊娠・出産、子育てまでを切れ目なくサポートする総合的な少子化・子育て支援対策を展開。（人口減少・少子化対策全般を企画調整課が所管する一方、妊娠期から子育て期までの各ステージにおける子育て支援策を市民課、福祉事務所、学校教育課等が担当）
- ・包括協定を締結する県立大学と連携して、本市における少子化の要因分析や取組に対する評価を行い、その成果を基に、令和2年3月に「安芸市少子化対策強化基本計画及び実施計画」を策定。令和3年度から、この実施計画に基づいた取組の推進と進捗管理を開始。

■安芸市の課題

- ・他の自治体にも見劣りしない、様々な少子化対策をラインナップしているが、依然として出生数の減少に歯止めがかからない状況。
→真に出生率向上につながる施策に取り組めているか、根拠に基づいた事業展開は十分か。
- ・庁内各部署の垣根を越えた連携が十分図られているか。
→上記計画においても、「実効性の高い少子化対策を行うためには、庁内横断的な推進体制を整える必要がある」との指摘

■モデル事業に参加した動機

- ・本市の実情に応じた、オーダーメイド型の少子化対策事業を企画・立案
→ **単なる思い付きではない、データに裏付けされた取組を展開**
- ・少子化問題の解決に取り組む、全庁横断的な推進体制を構築
→ **部署の垣根を越えたプロジェクトチームにより、モデル事業の手法を習得**

3. 安芸市少子化対策プロジェクトチームについて

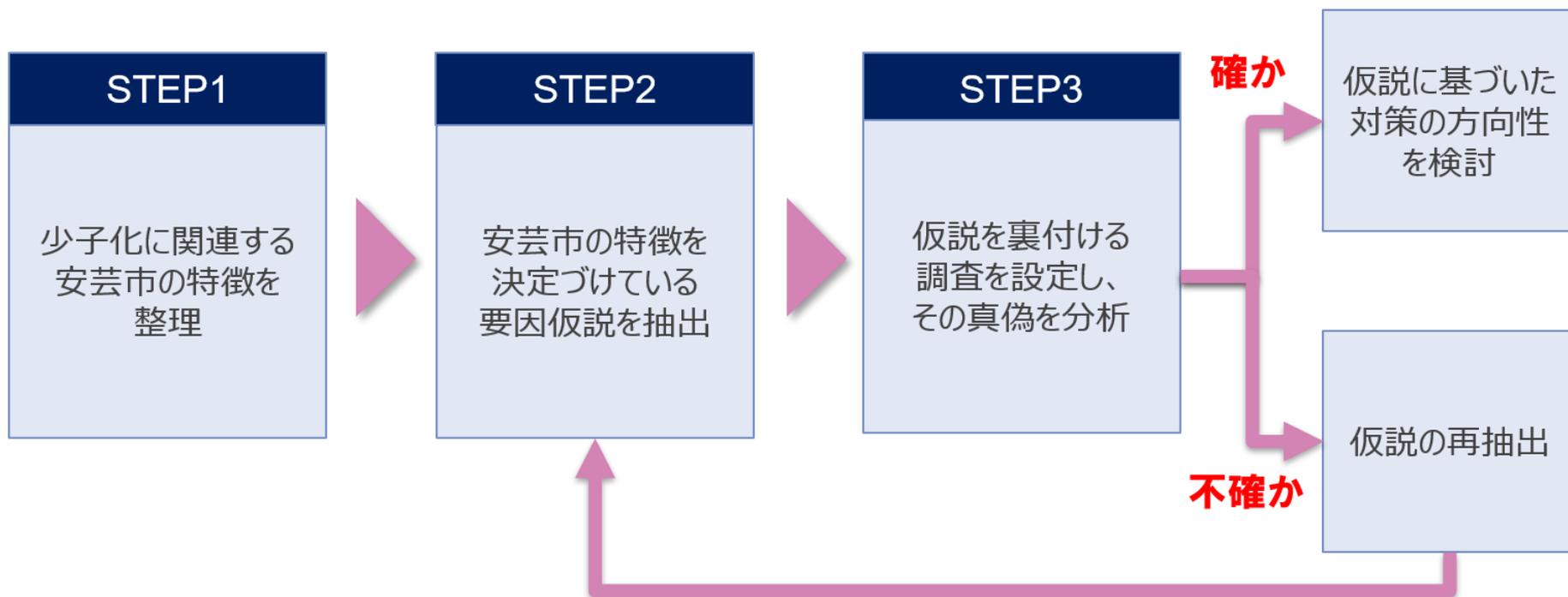
安芸市少子化対策プロジェクトチーム

- 全庁横断的な少子化対策を検討する推進体制として、庁内10課（所）の市職員で構成する、「安芸市少子化対策プロジェクトチーム」を設置（令和3年6月）し、本市の少子化に歯止めをかけるための、総合的な検討機関として位置付け。
- 本チームでは、幅広い見地から総合的な検討を行うため、福祉事務所や市民課など子育て支援業務を所管する部署のほか、独身者や新婚者、多子世帯、また、子育てを一定終えた者など、様々なライフステージにある職員をチーム員として任命。（男性職員5名、女性職員5名で構成）
- 結婚や妊娠、出産は、個人の自由な意思決定に基づくもので、特定の価値観を押し付けたり、プレッシャーを与えることがあってはならないことから、本チーム会では定量的な数値目標を定めず、「結婚や出産を望む人の希望が叶えられる社会の実現」を目指すべき目標と定め、その希望を阻む要因をターゲットとして取組を開始した。
- 令和3年度においては、本チームが「少子化対策地域評価ツール」を活用した、地域アプローチ事業に取り組んだ。

4. 地域アプローチ事業の取組について

1 地域アプローチ事業の流れ

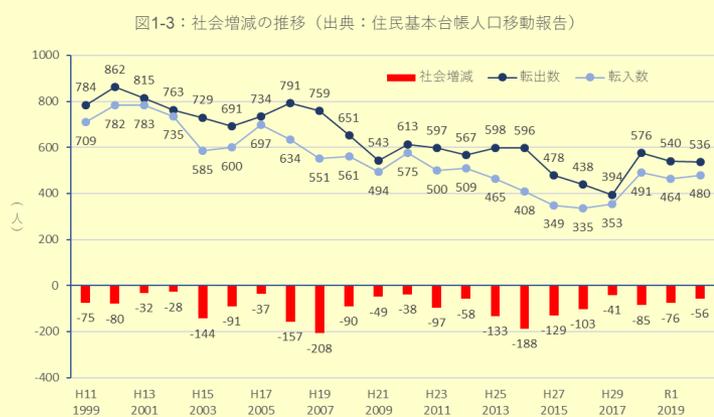
検討ステップ



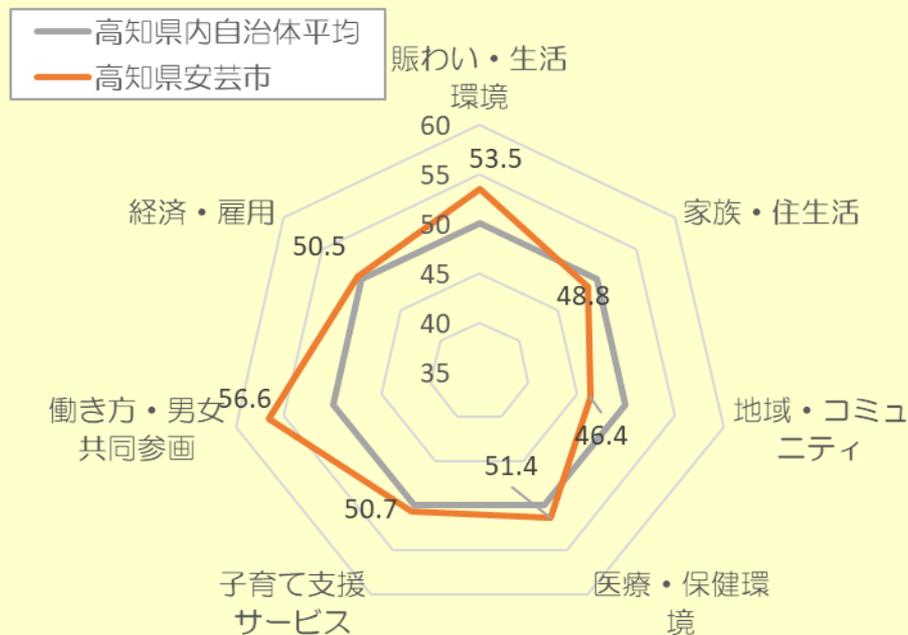
4. 地域アプローチ事業の取組について

2 わがまちの特徴や要因仮説の抽出(地域評価ツールの活用)

従来の統計データ



地域評価ツールを活用した統計データ



地域評価ツールを活用することで、数値化が困難な「7つの地域力」が見える化され、本市の強み・弱みや、どの社会経済指標が地域力に影響を与えているか、客観的に分析することができた。

4. 地域アプローチ事業の取組について

2 わがまちの特徴や要因仮説の抽出(地域評価ツールの活用)

地域の強み・課題の分析

地域の強み・課題の整理・検討フォーマット（Aグループ）

分野	強み（客観 + 主観）	課題（客観 + 主観）
賑わい・生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ドラッグストアが多い 東部の中心地 量販店が多い 地元の野菜を賣える地場産市場 近所の人野菜をくれる 高速道路が開通予定 	<ul style="list-style-type: none"> 娯楽施設が少ない 家賃が高い 趣味活動・サークルが少ない PRが弱い インフルエンサーが少ない 話題性がない 情報発信が少ない 公共交通が使いづらい 公園の老朽化
家族・住生活	<ul style="list-style-type: none"> 山・川・海がある 顔の見える関係性 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害が多い 市街地が浸水区域 大学・専門学校がない 持ち家世帯率が低い 空き家が多い
地域・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 治安がよい 三菱との関係性 阪神とのつながり 	<ul style="list-style-type: none"> 出会いの場がない 新しいものを受け入れにくい 若い世代が楽しめる施設がない 地区によって自治会がない
医療・保健環境	<ul style="list-style-type: none"> 病院が多い 総合病院がある 24時間救急体制がある 産婦人科医がある 歯医者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 保健師が多忙
子育て支援サービス	<ul style="list-style-type: none"> 関係性ができる世話してくれる 待機児童が少ない ベビーキッズ、ファミサポ等 障害児への理解度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 保育料がかかる 雨天に子どもが遊ぶ場所がない 子ども用品店が少ない
働き方・男女共同参画	<ul style="list-style-type: none"> 女性の社会参画度が高い 	
経済・雇用	<ul style="list-style-type: none"> 官公庁が多い 新規就農支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 就職の選択肢が少ない 大きな会社が少ない 世帯収入が低い

4. 地域アプローチ事業の取組について

2 わがまちの特徴や要因仮説の抽出(地域評価ツールの活用)

対応策の検討

既存／今後の取組の整理・検討フォーマット（Aグループ）

ライフステージ
イメージ

出会い・結婚

(狭義の少子化対策)
入口である「出会い」を創出するための取組が弱い

妊娠・出産

子育て

分野

賑わい・生活
環境

娯楽施設が少ない 家賃が高い 趣味活動・サークルが少ない PRが弱い インフルエンサーが少ない 話題性がない 情報発信が少ない 公共交通が使いづらい	ドラッグストアが多い 東部の中心地 量販店が多い 地元の野菜を賣える地場産市場 近所の人野菜をくれる 高速道路が開通予定 公園の老朽化
---	---

家族・住生活

自然災害が多い 市街地が浸水区域	大学・専門学校がない 持ち家世帯率が低い 空き家が多い 山・川・海がある 顔の見える関係性
---------------------	---

(広義の少子化対策)
安芸市の魅力について発信していくことが重要

地域・コミュニティ

出会いの場がない 新しいものを受け入れにくい	若い世代が楽しめる施設がない 地区によって自治会がない 治安がよい 三菱との関係性 阪神とのつながり
---------------------------	--

医療・保健環境

病院が多い	総合病院がある 24時間救急体制がある 産婦人科医がある 歯医者が多い 保健師が多忙
-------	--

子育て支援サービス

関係性ができる世話してくれる 待機児童が少ない ベイビーキッズファミサポ等 障害児への理解度が高い	保育料がかかる 雨天に子どもが遊ぶ場所がない 子ども用品店が少ない
--	---

働き方・男女共同参画

女性の社会参画度が高い	幼稚園がない 放課後障害児デイサービスがない 子どもと行ける飲食店が少ない
-------------	---

経済・雇用

就職の選択肢が少ない 大きな会社が少ない 官公庁が多い 新規就農支援の充実	世帯収入が低い
--	---------

4. 地域アプローチ事業の取組について

3 要因仮説の検証

No.	抽出された要因仮説	裏付け調査
1	市内高等学校の進路状況が影響	各高等学校HP
2	女性が望む雇用の場がない	市総合計画2021
3	市内に雇用の場が少ない	ハローワーク安芸 業務月報
4	あき総合病院の転勤が影響	県立あき総合病院
5	外国人人口の増加	住民基本台帳
6	第一次産業の転入が多い	市移住者アンケート
7	Uターン・Iターンの割合が多い	市移住者アンケート
8	他市町村と比較して家賃が高い	賃料相場情報SUUMO
9	農業者の有配偶率が低い	H27国勢調査
10	出会いや婚活の場が少ない	結婚に対する意識調査2015
11	子どもを望まない世帯が多い	結婚に対する意識調査2015

① 安芸高校と椋ヶ丘高校の「進路状況」

安芸高校
 ・高校生の1/3が県内の大学、専門学校に進学
 ・4/5分の1の生徒が専攻の大学、専門学校に進学
 移ヶ丘高校
 ・高校生の80%の生徒が、市内に留る

③ 安芸市は雇用の場が少ないかどうか

安芸市の有効求人倍率

令和2年9月頃までは、新型コロナウイルス感染症による有効求人倍率が1を下回っていたが、その後回復し令和3年1月には1.4を上回っている。

業種・職種	一般	パートタイム
農・林・漁業	8	6
鉱業	0	0
建設業	32	0
製造業	15	5
電気・ガス・熱・水道	0	0
運輸・情報通信業	1	3
卸売・小売業、飲食店	11	47
宿泊・医療・不動産業	2	0
医療・福祉	55	52
サービス業	6	30
公務、その他	13	27
計	143	150

女性の就業希望が比較的高くない「建設業」や「製造業」については一部の新規求人が多い一方、女性の就業希望が比較的高い「流通・小売業、飲食店」や「サービス業」についてはパートタイムの新規求人が多い。また「医療・福祉」については、一般・パートタイムのどちらの新規求人も多い。

⑤ 外国人人口の推移

安芸市の外国人人口

H25からR3の外国人人口増加率は高知県平均が約1%であるのに対して、安芸市は1.5%と県内平均を上回っている。男女別にすると、外国人男性の増加率は2.63%、外国人女性の増加率は1.14%となっている。

外国人男性の人口が増え多い年齢層は20～24歳であり、全体の38%を占めている。女性に対して、外国人女性の人口が増え多い年齢層は30～34歳であり、全体の24%を占めている。

外国人男女の合計で見ると、20～34歳で全体の64%を占めている。

⑦ そもそも子どもを持ちたいと考えていない世帯が多いかどうか

理想的な子どもの数

理想的な子どもの数は「2人希望」が全体の約半分以上を占めている。また「3人希望」が全体の約1割を占めている。

理想的な数だけ子どもを持ちたい理由

男女共に最も多く挙げられた意見は「子育てや教育にお金がかかりすぎる」であった。また女性が多く挙げた意見として「精神的疲労・身体的負担に耐えられそうにない」、「住むと家賃が高すぎる」、「子育て支援サービス不足の不安」、「仕事と家庭の両立が難しい（長時間通勤）」の順が続いている。

伸ばすべき強み **Uターンの推進**

年度ごとの移住者内訳を見ると、「Uターン」が全体の4分の1を占めている。市内には大学がないため、高校卒業後の若者の転出を食い止めることは難しいが、大学卒業後のUターンを推進することで、人口減少の抑制につながる可能性。

伸ばすべき強み **外国人人口の増加**

本市の外国人人口の増加率は、全国平均、県平均と比較して高い割合にある。また、外国人人口を年齢別で見ると、子育て世代に集中していることから、対策を講じることで外国人の自然増につながる可能性。

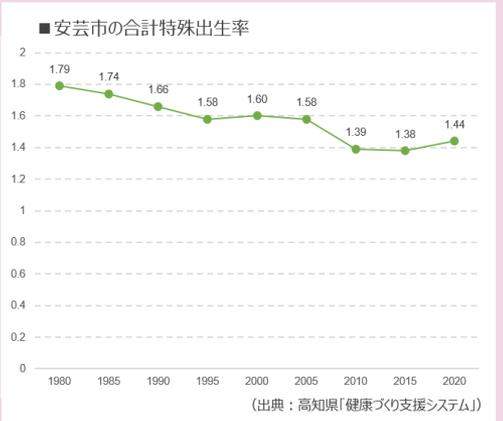
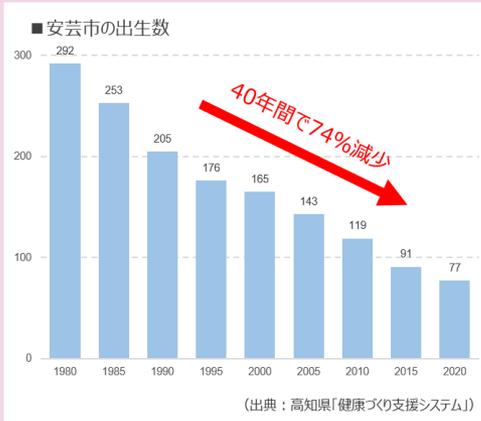
取り組むべき課題 **子どもを望む方の障害を軽減**

「結婚に関する意識調査2015」では、希望する子どもの数は「2人」が約半数を、「3人」が約3割を占めており、統計的にも第2子・第3子の合計特殊出生率は県平均、全国平均を上回っているが、全体としての比率では逆転している。このことから、本市では第1子をもうける際に、何らかの障害が存在している可能性。

4. 地域アプローチ事業の取組について

4 検証を踏まえた施策の立案

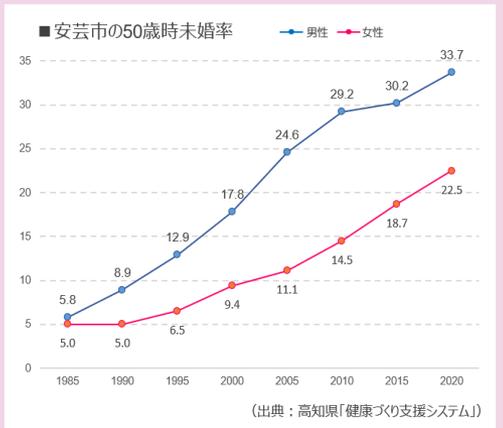
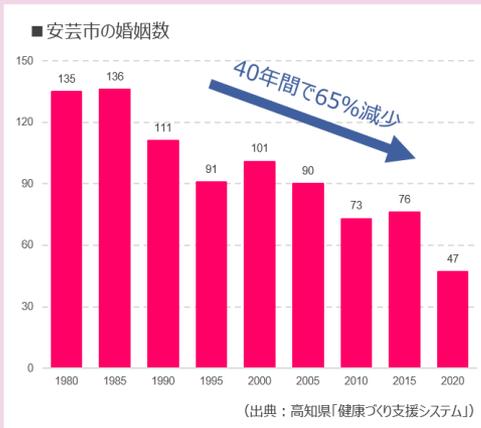
検討施策① 出会いの場の創出について



安芸市の出生数はこの40年間で74%減少

合計特殊出生率は
1.79 (1980年) → 1.44 (2020年) に低下

このことが出生数減少の最大の要因とは考えにくい



安芸市の婚姻数はこの40年間で65%減少

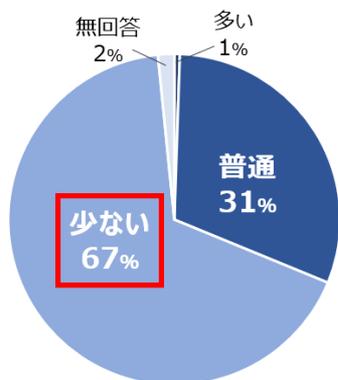
令和2年国勢調査では、高知県内女性の50歳時未婚率は東京都を抜いて全国ワースト1位
安芸市の同比率は男女共に県平均を上回った

これが出生数減少の最大の要因と推察

4. 地域アプローチ事業の取組について

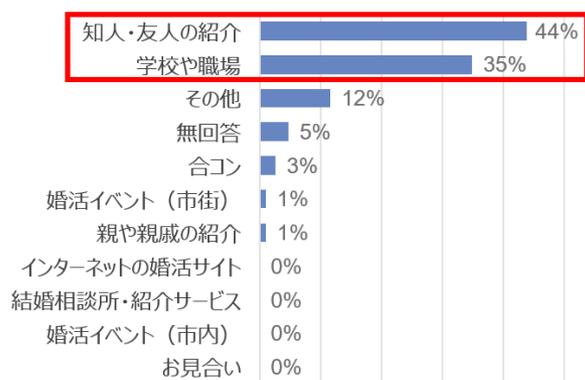
4 検証を踏まえた施策の立案

■ 安芸市の出会いの場



(出典：少子化対策アンケート調査2021 [n=189])

■ 配偶者との出会いのきっかけ



(出典：少子化対策アンケート調査2021 [n=189])

アンケート調査では、約7割の人が安芸市には出会いの場が少ないと回答

また、配偶者との出会いのきっかけは「知人・友人の紹介」「学校や職場」が約8割を占める

男女の会おうきっかけが非常に限定的なものになっている可能性

施策①

本市少子化対策のボトルネックである出会いの場創出を推進するため、主体的な役割を担う専門支援員「**出逢いコンシェルジュ**」を配置

4. 地域アプローチ事業の取組について

4 検証を踏まえた施策の立案

検討施策② 子育て環境の充実について

■有配偶出生率の比較



(出典：内閣官房「地域少子化・働き方指標（第1版～第4版）」から作成)

■安芸市の地域力



(出典：内閣府「少子化対策地域評価ツール」から作成)

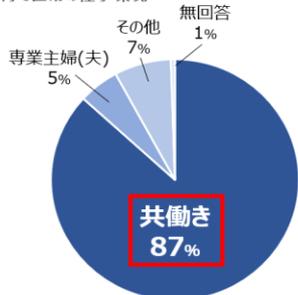
有配偶出生率 82.9% (2010年) → 75.1% (2015年)

全国平均以上だった比率が、5年間で全国平均以下に

地域評価ツールでは、「経済・雇用」と「働き方・男女共同参画」がいずれも高水準

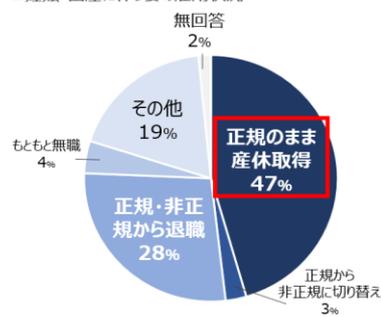
家事・育児の負担が依然として女性に偏っている状況の中、男女共同参画社会の進展はむしろ合計特殊出生率に負の相関関係をもたらす可能性

■子育て世帯の仕事環境



(出典：少子化対策アンケート調査2021 [n=189])

■妊娠・出産に伴う妻の雇用状況



(出典：少子化対策アンケート調査2021 [n=189])

アンケート調査では、子育て世帯の87%が共働き
多子世帯になるにつれて共働きの割合が高い
(子ども1人：78.0%、子ども3人以上：90.0%)

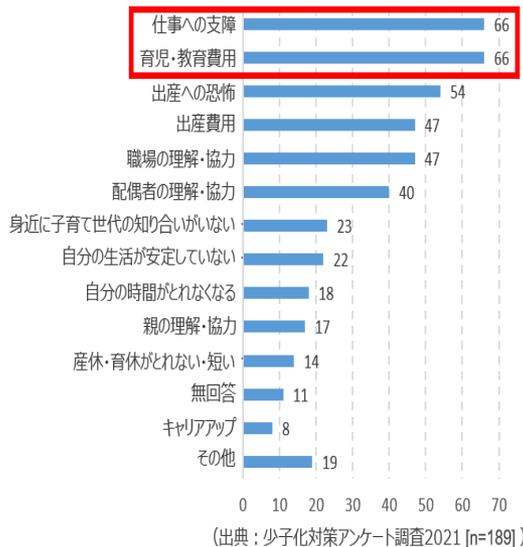
妊娠・出産に際し、47%の世帯は妻が正規職員のまま産休取得

仕事を続けながら子どもを産み育てられる環境整備が重要

4. 地域アプローチ事業の取組について

4 検証を踏まえた施策の立案

■ 第1子の妊娠・出産に踏み切る前の不安要素



■ 実際の子どもの数と理想の子どもの数

現在の子どもの数	理想の子どもの数	回答数
0人	2人	1
1人	2人	23
	3人	16
	4人	1
2人	3人	35
	4人	4
3人	4人	7
4人	5人	2
5人	6人	2
ギャップを抱える世帯数		91

(出典：少子化対策アンケート調査2021 [n=189])

第1子の妊娠・出産に踏み切る前の不安要素の1位は「仕事への支障」「育児・教育費用」

アンケート回答者の約半数(91世帯)が、理想の子どもの数と実際の子どもの数にギャップがある
また、この91世帯の73.6%(67世帯)が理想の子どもの数を3人以上と回答

ギャップ解消に必要なサポートとして、金銭的な支援が多く挙げられる一方、保育サービスの拡充や休日・雨天時の遊び場整備などの回答も

子育て世帯が理想の子どもの数を実現するためには、仕事を続けながら子育てに取り組むための環境整備が不可欠

施策②

利用需要の変化を見据えた保育所の最適な配置を図りつつ、更なる保育サービスの充実を目指した「認定こども園の新設」と「複合型子育て支援拠点の整備」を検討

5. 今年度の取組について

昨年度に実施した「地域アプローチ事業」で検討された内容の一部について、令和4年度に新規事業として予算化するとともに、引き続き、地域の実情に合った少子化対策の検討を進めている。

①「出逢いコンシェルジュ」の配置

「出逢いコンシェルジュ」とは、出会いや結婚を希望する男女に対し、趣味コンや恋活など、多様な出会いの場を提供するとともに、結婚や子育てへの機運を醸成し、社会全体でカップルを応援する地域づくりに取り組む専門支援員です。

「出逢いコンシェルジュ」の“出逢い”には、「男女の出会い」、「新たな命との出会い」、「家族の出会い」などの意味が込められています。



出逢いコンシェルジュ活動計画

主な業務概要

- 「高知家の出会い・結婚・子育て応援団」の発掘
出会いや結婚への支援を希望する地域の独身者をさまざまな形で応援する企業や団体の登録を促す。
- マッチングサポーター等の掘り起こし
高知県が運営するマッチングシステムでの会員お引合せや出会いイベントでの助言を行うサポーターを増加させる。
- 市民意向調査の実施と分析
結婚や子育てに関する市民ニーズの把握や現状分析を行い、地域における少子化の諸課題を明確化して取組の方向性を検討する。
- こうち出会いサポートセンターとの連携強化

進捗状況(R4.10月末現在)

- 市内における応援団登録件数
24団体(H28～R3累計)
→R4上半期 新規登録13団体
(累計37団体)
- マッチングサポーター登録者数
県東部登録者1名(～R3累計)
→R4上半期 新規登録者2名
(累計3名)
- アンケート調査の実施
・未婚の市職員(83名)を対象としたアンケート調査(R4.4月実施)
・18～49歳の市民2,000人を対象としたアンケート調査(R4.6月実施)
→**詳細な分析作業を実施中**

本市で少子化対策に取り組んでいる人や企業を紹介します！
vol.5

～あなたの出会いを応援！～
安芸市出逢いコンシェルジュ事業

安芸市では、「出会い」や「結婚」への支援を望んでいる独身の皆さんを応援するため、令和4年度から出会いや恋活等に関する専門支援員「出逢いコンシェルジュ」を配置しました。
この取組により、希望する男女に魅力ある出会いの場を提供するほか、地域全体で「出逢いたい」と望む皆さんを応援する機運の醸成に取り組んでまいります。

安芸市企画調整課企画係 ☎ 0887-35-1012

安芸市出逢いコンシェルジュ活動計画 ※一部事項紹介

- ①出会いイベントの開催
出会いの場の創出や出会いに対するハードルを軽減することを目的とした、令和版恋活イベントを実施します。
- ②高知家の出会い・結婚・子育て応援団の発掘
応援団に加盟する安芸市内の企業や団体を発掘し、令和5年度以降に応援団を巻き込んだ出会いイベントや異業種交流会を実施します。
- ③婚活サポーター・マッチングサポーターの発掘
新たに婚活サポーター・マッチングサポーターを担う人材を発掘し、本市内の出会いを希望する独身の皆さんへの支援体制の充実化に取り組みます。
- ④こうち出会いサポートセンターとの連携
こうち出会いサポートセンターと連携を図ることで、効果的な出会い施策の推進や広域連携による新たな出会いイベントの企画に取り組みます。
- ⑤ニーズ調査と分析
市民向けアンケートを6月に実施。その内容を分析し、市民の皆さんのニーズの把握に努め、今後のイベント・企画の参考にするほか、上記活動にも活用します。

右のQRコードから過去のバックナンバーをご覧ください。QR

5. 今年度の取組について

② 出会いの場創出イベントの企画・実施・支援

■ 独身男女の出会い交流イベント

20歳から35歳の独身男女をターゲットとして、カップリングを第一目標としない「気軽な出会い」をコンセプトに、これまで市が主体的に実施してこなかった、男女が参加しやすい出会い交流イベント開催に取り組む。

【令和5年1月22日開催予定】

■ 異業種間交流イベント

こうち出会いサポートセンターと連携し、市内の異なる事業所同士の業務報告・交流イベント企画を検討中。普段、接することのない異業種間で悩みや課題を共有しながら、新たな出会いを創出する。

【今年度中の開催を検討】

■ 出会いの場創出支援事業補助金

安芸商工会議所女性会が実施する出会いイベント『安芸で愛(あい)ましょ』を支援。

【11月6日(日)開催、参加者15名(男性8名、女性7名)、カップリング3組】



③ 少子化対策プロジェクトチームによる施策立案

昨年度に設置した「安芸市少子化対策プロジェクトチーム」では、結婚・妊娠・出産、子育てに関わる地域の課題を明確化し、オーダーメイド型の少子化対策に分野横断的に取り組む「地域アプローチ」の手法を引き続き踏襲し、地域の実情に合った少子化・子育て支援対策の検討を進めている。

【次年度以降に向けた新たな施策の検討】

- 子育て支援特設サイト開設(市の子育て支援制度に関する情報発信の充実強化)
- 奨学金返還支援による地元定着促進(若年層の経済的負担を軽減)
- 認定こども園及び複合子育て支援拠点整備
- 無料化施策の強化(第1子保育料、小中学校給食費など)
- 若者向け住宅整備(既存公営住宅の地域対応活用) ほか



6. 今後の展望について

安芸市少子化対策 プロジェクトチーム

本市の少子化対策に関する分野横断的な検討を行うための総合機関として位置づけ

Vision

出会いや結婚、
子どもを望む方の
希望が叶えられる社会

教育

子育て

妊娠・出産

出会い・結婚

オーダーメイド型 少子化対策

出会い・結婚、妊娠・
出産、子育て、教育ま
でを切れ目なくサポー
トする、地域の実情に
応じた少子化対策

Mission

各ライフステージにおける
施策を検討し、Vision達成に
向けた対策に取り組む

